非核の政府を求める大阪の会 ニュース

第205号　2021年9月1日

非核の政府を求める大阪の会　豊島 達哉
発行
〒542-0012 大阪市中央区谷町 7-3-4（新谷町第3ビル 210 号）
TEL.06（6765）3032　FAX.06（6765）3033
URL・https://hikaku-osaka.jp/
E-mail・hikakuosaka@hotmail.com
hikaku-osaka1986@kind.ocn.ne.jp

核禁条約発効のヒロシマ・ナガサキデー、多彩なとりくみ

「核兵器禁止条約」を署名・批准する政府を！

▲「世界大会ヒロシマ・デーin おおさか」(8.6)

これが被爆国の首相なのか！

被爆76年、被爆者の平均年齢が83歳をこえる今年の広島平和記念式典で菅首相のあいさつでとんでもないことが起きました。用意されたあいさつ文の一番の要、「戦争被爆国であり、『核兵器のない世界』の実現に向けて努力」を読み飛ばす事態になりました。被爆者としては一番聞きたいフレーズです。菅首相としては一番言いたくないフレーズなのでしょうか。それを示すかのように核兵器禁止条約には署名する考えはないことは言明、さらに来年予定されてる締約国会議へのオブザーバー参加も明言しない姿勢です。これら一連の言動が被爆国首相なのでしょうか。

一方、核兵器禁止条約の発効に確信をもった非核国、自治体、市民団体は、コロナ禍の状況のなかで可能な取り組みがおこなわれました。原水爆禁止世界大会実行委員会は8月6日、世界大会―ヒロシマデーをオンラインで実施し、「平和の波」行動を呼びかけました。大阪原水協は、密をさけるため、人数制限をして大阪市内の会場で参加しました。当会も事務局メンバーが参加しました。参加者から、感想が寄せられました。

◇「ヒロシマから世界へ2021年　被爆者との連帯のつどい」で、広島市立基町高校の生徒が、証言を聞いて「原爆の絵」を制作されていると知りました。被爆者の方の高齢化が進む中で、被爆の実相を未来につなげるとともに、若い世代の主体的な関わりを創造するという、画期的な取り組みだと思いました。今までも、被爆地の写真や画家が描いた絵は見たことがあります。しかし、報告された学生の方から、死体の絵の描き方の苦闘や、構図や色の選択に試行錯誤を重ねたことを聞きながら、被爆者の方の記憶が、若い世代にしっかりと刻まれていることを感じました。

また、広島平和記念資料館のホームページからこの原爆の絵を見ることができると知りすぐにアクセスしましたが、一人でも多くの方に見てもらいたいと思いました。（大阪府立障害児学校教職員組合　横山晃彦）

被爆76年 広島は問う

核禁条約発効 市長「参加を」 首相触れず

首相「核なき世界へ努力」読み飛ばす

原爆ドーム前で8月4日とりくまれた「1万本ピースアピール」に当会も**「核兵器禁止条約に参加する政府をつくろう」**のペナントを送付しました。8月6日は天神橋商店街で（左写真）「平和の波」行動に参加しました。

【非核五項目】
①全人類共通の緊急課題として核戦争防止、核兵器廃絶の実現を求める
②国是とされる非核三原則を厳守する
③日本の核戦場化へのすべての措置を阻止する。
④国家補償による被爆者援護法を制定する。
⑤原水爆禁止世界大会のこれまでの合意にもとづいて国際連帯を強化する

新常任世話人紹介

立命館大学 山崎文徳

今月号の新常任世話人紹介のコーナーは、大学教授の山崎文徳氏です。自己紹介をかねて8月1日開催された世界大会・科学者集会の司会運営をされた山崎氏にレポートしていただきました。

立命館大学の山崎文徳と申します。大学の仕事と家庭事情（育児）が重なり、なかなか活動に参加できずに申し訳ありません。今年の原水爆禁止科学者集会は対面での実施ができず、日本科学者会議平和問題研究委員会を中心にオンラインで企画することになりました。自己紹介を兼ねてその報告をさせて頂きます。

メイン報告は元気象庁気象研究所研究室長・元日本学術会議会員の増田善信さんが「ストックホルム・アピールから核兵器禁止条約の発効まで」について、講演として太平洋核被災支援センター共同代表の濱田郁夫さんが「クリスマス島核実験阻止の抗議船とビキニ労災訴訟」について、韓神大学統一平和政策研究院上級研究員のイ・ジュンキュさんが「『核兵器禁止の時代』における強大国政治の再現と東アジアの平和」について、関西大学法学部の高作正博さんが「憲法9条の規範力と市民運動」についてご報告されました。

メイン報告の増田善信さんは、気象の分野で仕事を始めた経緯、太平洋戦争の開戦とともにモールス信号が暗号化されて気象情報が機密扱いされたこと、戦後は核戦争下における核の冬の問題を専門の立場から社会に発信したことをご紹介されました。核の冬に関連して、被爆者の前で黒い雨の話をした際に、黒い雨の降雨地域（宇田雨域）が本当にきれいな卵型になるのかという問題提起をされた経験を話されました。改めて考えれば当たり前だけれども、運動の現場からそういった事実を突きつけられたことに大変ショックを受けられたとのことです。その後、黒い雨の降雨地域を詳細に調査し、増田雨域の発表に至るまでの話をされました。8畳の部屋はアンケート用紙で足の踏み場もなくなり、雨域の発表後には自宅に電話が鳴り響いたということです。一市民として運動に参加しながら、科学者として自己の専門から問題にアプローチすることで、科学者の社会的責任を果たされてきたことが大変よくわかりました。

参加者は150名以上にのぼり、黒い雨訴訟の高裁判決が上告されず、判決が確定されたということから、社会的に関心が高いテーマでよかったという感想が多くありました。来年以降にどのような形になるかはわかりませんが、運動の一つのあり方として、一定の到達を築けたのではないかと思います。

『核なき世界をめざして』③

ボン・フランクフルト両市長から署名

今年の原水爆禁止世界大会は、核兵器禁止条約発効後、初めての世界大会。来年3月には、核兵器禁止条約締約国会議も開かれます。運動が新しいステージに動き出す、希望の中で開催されました。

ところが、8月6日記念式典での菅首相は、核兵器禁止条約には全く触れず、広島に来ているのに「心ここにあらず」と言った感じで、大切な決意を示すフレーズを読み飛ばしてしまいました。「1日も早く、この政府をかえなければ」決意をあらたにする8月6日となりました。

市民の平和への願いを背景に、広島・長崎両市長の挨拶は、大義と理想を示すものでした。市政運営上は様々な違いや問題点があるのでしょうが、「ヒバクシャが生きているうちに、核兵器のない世界を」と言う願いについては共通であることをあらためて感じました。

実は、2016年ボン市長とフランクフルト市長を訪問し懇談したときも、同様の実感をもちました。被爆者とともに日本から来たことを告げると、その一瞬で、リスペクトの空気が流れます。広島被団協の佐久間会長が語る被爆体験に皆さんがピーンと集中したのです。そのあとで、原爆写真を見せました。

「黒焦げとなった少年」「焼き場に立つ少年」「赤い背中の少年」など、私自身、今まで何度も説明してきたのに、説明しながら涙が出てしまいます。皆さんは目を覆いながらも一生懸命聞いてくださいます。そして、「核兵器と人類は共存できない」ことを深く胸に刻み、市庁舎で原爆写真展を開催することを約束してくれました。

それとともに、ドイツの皆さんは、現在の日本にも強い関心を持っておられました。それは、「Shinzo Abe」への関心、というより不安です。憲法9条は大丈夫なのか、「安倍ファシズム」に支配されていくのではないか、大きな不安を語られました。私は、2015年の「戦争法案反対」の運動の高まりと、その後、野党の共闘が進んでいることなどを伝えました。野党共闘の

進展については、反ファシズム統一戦線の歴史の教訓と合わせて理解してくださって、政治的立場を超えてエールを送ってくれました。

話が弾んだ懇談の最後に、心を込めて署名をしてくださいました。（右写真：署名に応じたフランクフルト副市長）この時の署名は、「ヒバクシャ署名」です。このような一筆一筆の署名が集まって翌年の2017年、核兵器禁止条約を生み出す力になったのだと思います。被爆の実相を伝えること、一人一人の思いを「署名」という「カタチ」にしていくこと、それが世界を変えていくのだと確信したのでした。

ところで、日本政府に核兵器禁止条約への参加を求める地方議会の意見書は、現在593自治体。1788自治体の33％に達しました。国民平和大行進で市役所を訪問しながら、市長や議長のご挨拶と署名をいただき、地域の原水協や新婦人の支部などが粘り強く議会ごとに要請行動を続けていることが、力になっているのですね。私たちの運動が社会を動かしています。

余談ですが、どの市庁舎も、それ自体が美術館のような建物でした。古い建物を残していることに誇りを持つヨーロッパ。一方で、由緒ある歴史的建造物を簡単に破壊してしまう日本。そして、オリンピックのために巨額の資金を投じた建造物をどうするか、赤字に頭を抱えている、今の日本を見るにつけ、持続可能な社会を子どもたちに手渡すために、根本的にこの政治を変えなければと思います。

▲ボン市役所

（非核の政府を求める大阪の会常任世話人・長尾ゆり）

【前号クイズの答え】

【問1】写真③このドイツ人はカール・マルクスとフリードリヒ・エンゲルス

【問2】写真④「英雄のいない国は不幸だ！」「違うぞ。英雄を必要とする国が不幸なのだ」という名セリフはベルトルト・ブレヒトです。

【問3】写真⑤　ボン市民の郷土愛と、この人への愛はただものではない。その人の名はルートヴィヒ・ヴァン・ベートーベンです。

76年前を忘れまい～ 7・26田辺の模擬原爆追悼のつどい開かる

1945年7月26日午前9時26分、現在の田辺小学校北側に「模擬原子爆弾」が投下され、7名の死者を含む多数が犠牲になられました。広島、長崎への原爆投下の前後に、訓練のために全国的には7月20日から8月14日まで49発もの模擬原爆が投下され400名以上の方が犠牲になられたとのことです。

今年の「追悼のつどい」は、コロナ禍の下で例年とは異なりオンライン中心でしたが模擬原爆投下近くの恩楽寺で50名以上が参加してしめやかに執り行われました。

9時26分には黙とうをし、松本さん（当時5歳弱）は、「当日、投下地点から200メートルのところで遊んでいて爆風で飛ばされて訳が分からなかった。怖さでブルブルと震えていたこと、空が赤かったことを覚えている。戦争ほど怖いものはない」と証言。また当時20歳で国民学校教師だった龍野さん（96歳）は、「姉の大の仲良しの友人が爆死した。戦争で空襲におびえ飢えにも苦しんだ。自分も野草を摘んで食べていた。幼い孤児がぼろ服姿でゴミ箱をあさって食べ物を探していた姿が忘れられない。どうして戦争を起こしてしまったのか、今の若い人には考えてほしい。当時は自由に発言することも許されなかったが、今は違う。どうか未来の平和のために考え行動してほしい」と切々と訴えられました。出席した地元の田辺小学校、中学校の代表らが、「田辺で起こったこと、戦争の恐ろしさを学び、語り継ぎ、平和な未来をつくる」と凛々しく決意を表明。

東住吉平和委員会の植田晃子会長は、「憲法を変えようというきな臭い動きがある下で、地域で平和委員会をたちあげた。核兵器禁止条約批准国が55ヵ国にもなっているのに日本政府が批准しないことに怒っている。龍野さんの頑張りに励まされ、私も生涯平和のために行動する」と挨拶。

このつどいには、地元の東住吉区長、ユネスコ大阪代表、絵本作家、15年戦争研究会員、平和委員会など幅広い団体、個人が出席され、マスコミも多数が取材。当会からは、岩田、谷本事務局員が出席しました。（岩田常任世話人にレポートしていただきました）

シリーズ大阪における国民平和行進の歩み

①平和行進の開始…「広島―東京1000キロ」の平和行進

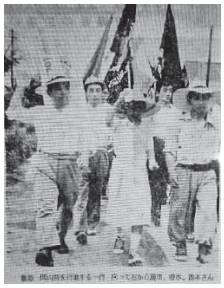
2021年国民平和行進がコロナ禍のもとで、6月30日奈良県から引き継ぎ7月7日兵庫県にバトンタッチ

されました。今年の平和行進は、核兵器禁止条約が国際法として発効した初年度の行進です。

そこで、大阪における国民平和行進の歩みを紙面で振り返り、63年間に及ぶ私たちの運動が核兵器禁止条約を国際政治のうえで成立させた画期的な成果を検証したいと思います。今月号は第1回平和行進です。

国民平和大行進は、1958年6月20日、広島原爆慰霊碑前を出発し、東京で開催される第4回原水爆禁止世界大会成功にむけて「広島―東京1000キロ」の平和行進として日本原水協の「核武装阻止と民主主義擁護国民運動月間」の主要な行動の一つとして始まりでした。

この時期の情勢は、新たな核戦争の危機がせまっていました。米国による台湾海峡紛争に核使用が提起（米国解禁文書）され、韓国に核装備を表明、元米国大統領トルーマンが“原爆投下に良心の呵責を感じない”発言に被爆者の怒り爆発。さらに岸首相の自衛の範囲なら核兵器使用も違憲でないとの表明、国内でも警職法反対、勤評反対の国民的な闘争が激化する平和・民主主義の危機感が高まっていました。こうした情勢をうけて日本原水協は6月17日、第26回常任理事会で核武装阻止、民主主義擁護国民運動（平和行進含む）の提唱を決定しました。



この写真は、大阪平和を守る会（現平和委員会）1958年7月6日付30号掲載の写真です。左端の男性が、東京まで通し行進された西本あつしさん。

7月4日兵庫県龍野市に入った一行は、7月9日正午、大阪市西淀川区佃町左門殿橋に到着。受け入れは第四回原水爆禁止世界大会大阪実行委員会、実行委員会は府内三日間の行進態勢として「動員は最低千人を確保、原水協の役員の参加はもとより、地元選出代議士、地方自治体議員、各団体役員等に広く参加を呼び掛ける。宣伝車で市民の参加を呼びかけ、音楽隊の参加を要請する」と方針を決定しました。

大阪原水協は小畑忠良会長をはじめ伏見康治阪大教授や北野高校社研部員、大阪市立盲学校の生徒など若い青年も積極的に参加しました。

大阪での行進コースは、第一日目（7月9日）左門殿橋出発（12時30分）→野田阪神→桜橋→市庁前→府庁

▲中之島公園を出発

第二日目（7月10日）中之島公園出発（9時30分　右写真）→長柄橋→吹田市→千里→茨木市→高槻市

第三日目（7月11日）高槻市出発（7時30分）→大山崎（京都に引継ぎ）

大阪を通して歩かれた原善馬さんは、大阪平和に次のような手記を寄せています。「私は7月9日、大阪市内より参加した。7月10日、老若男女揃ってわれわれの成功を祈り、声援してくれ、疲れもどこかへ飛んでしまう。・・・吹田市では妻と子供を原爆のため亡くした弁護士さんの声を聞いた。高槻市では原爆孤児の娘さん（23歳）の激励の言葉をいただいた。高槻市の宿舎で吹田の「くさぶえ会」の慰問をいただき実に楽しい夕べであった。」平和行進が地域の被爆者やその家族（遺族）を励ましていたことがよくわかります。（加賀耕平）

15回目の「平和の鐘つき」…大阪宗平協8・6・・・

8月6日、大阪宗平協は大阪市内妙徳寺で15回目の「平和の鐘つき」が行われました。

「第11回からほりピースフェスタ2021」（実行委員会主催）との地域共同のとりくみです。

2021年意見広告ポスター募集要項

核兵器禁止条約が世界のルールになりました。

しかし、唯一の戦争被爆国である現政権は、頑なに核禁条約の署名・批准を拒否しています。コロナ禍のもとで核禁条約の署名・批准を促し、非核の政府、平和憲法を生かす政府実現に向けて、より一層草の根の力、市民社会の力を強めることが求められます。

今年の意見広告ポスターは、この世界の流れに呼応して、一日も早い核兵器のない世界実現のための一助にするため作製します。

〇メインスローガン

2021年1月22日から核兵器禁止は世界のルールになりました！

〇サブスローガン

軍事費削ってコロナ対策に！

賛同金　団体：一口3,000円　　個人：一口1,000円

締め切り　11月末日